

2019年度外国人留学生入学試験「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験(芸術学科は小論文)		面接	
	狙い・意図		狙い・意図	
日本画	絵画表現に於ける発想力、構成力、描写力、色彩感覚を求めた。		専門試験作品を重視した。専門試験作品と提出作品の制作意図を説明してもらい、小論文、志願理由と合わせて総合的に判断した。	
油 画	デッサン力や絵具の扱い、構成力などの基礎的な力量を見極めることに加え、テーマである「心」を表現するための想像力や思考力を見るのが今回の出題のねらいである。		実技試験作品について、「心」をどのように表現したか、提出作品の制作意図などを質問し、制作意欲や日本語によるコミュニケーション能力などから総合的に判断した。	
版 画	<p>専門試験では大学4年間の学びの基礎的な造形表現力を評価する出題とした。その評価のポイントは次の4つが挙げられ、1)から4)へと段階的に評価する。</p> <p>1) 形態、量感、空間をしっかりと把握し、表現できているかどうか 2) 細部、質感の集中的な描きこみができているかどうか 3) 構図、構成のバランスがとれているかどうか 4) 作者が何に興味をもち、どのようなテーマをもって取り組んだか</p> <p>今回のモチーフは貝殻、布(ストライプ柄)、ステンレスボールだったが、1)の形と立体の表現ではステンレスボールの形、貝殻の量感が描けていることが必要最低限クリアしなくてはならないポイントとなる。そこに採点に大きく関わってくるのは、2)の細部と質感の描きこみである。異なる3つの素材のもつ特徴、ステンレスボールへの写り込みと、サザエの質感、ストライプの布の質感がどのくらい描けたかが大きなポイントとなってくる。</p>		<p>面接時の質問事項は次の通りとなる。</p> <p>1)日本への留学理由と多摩美術画を志望する理由 2)大学4年間で何を学び、卒業後何をしたいか。 3)高校で取り組んだこと、友人関係について 4)専門試験の自己評価 5)持参作品のプレゼンテーション 6)現在取り組んでいること、または興味があることについて</p> <p>面接員とのやり取りに際しての評価ポイント。 1)面接員の質問を理解して、適切に回答できる。 2)自分のアピールポイントを分かりやすく話することができる。 3)持参作品のプレゼンテーションを分かりやすく行うことができる。</p> <p>持参作品に関しての評価のポイント 1)持参作品の完成度が高い。 2)テーマ、技法などに独自性がある。</p>	
彫 刻	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを形にする基礎的な描写力を有しているか。 ・画面構成が的確に表現されているか。 ・発想が柔軟で自由に表現できているか。 ・出題に対して、積極的に対応しているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・日本語によるコミュニケーションを有しているか。 ・入学後のカリキュラムに対応できる意欲と知識を有しているか。 ・自己の専攻に対する明確なビジョンを有しているか。 ・彫刻領域に対する知識と関心を持っているか。 ・本学を志望した意図を明確に述べられるか。 ・本学で学びたい具体的な専門領域があるか。 	
工 芸	形態、素材感、色彩感、立体感、空間的な配置、画面構成などの基礎的な描写力を確認する。また、鉛筆デッサンといえども、対象に向き合う際の作者の感動が伝わってくるような画面の雰囲気や表現力も期待する。		なぜ本学の工芸学科を選んだのか、そして何を学びたいのか、将来の展望等について熱意と説得力のある答えを望む。同時に、実技試験を経た感想を話してもらって、本人の制作についての考え方や取り組み方を再認識したい。また、面接の受け答えと小論文において、本学での学業を達成するために必要な日本語の能力を確認する。	
グラフィックデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の意図や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからかかえる品格、感性に優れているか 		<ul style="list-style-type: none"> ・日本語で日常会話が行えるか ・専門分野の用語が理解できるか ・入学志望理由が明確であるか ・自分の意見が述べられるか 	
プロダクトデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力=問題の把握、理解が適切か ・発想力=アイデアが優れているか ・独創性=他にないアイデアか ・実現力=アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力=アイデアが伝わる表現か 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか 	
テキスタイルデザイン	テキスタイルデザインを学ぶために必要な基礎的観察力と描写力及び色彩表現力を問うことをねらいとして、椎茸2個をモチーフとして出題した。設問を正しく理解しているかどうか、正確な観察と独創的且つ調和的な構成が美しく丁寧にできているかを採点のポイントとした。		ひとつは、授業についていくことが出来る十分な日本語力と造形力を有しているかどうかを問うために、もうひとつは、テキスタイルデザインを学ぶための意欲と志願の動機を明確に説明できるかどうかを問うことをねらいとして面接試験を実施した。面接の手順:名前を述べた上で、持参した作品について約3分間で説明してもらい、自分自身をアピールしてもらい、教員からの質問として、大学で学びたいことは? 将来の夢は? 美術以外で得意な科目は? などに答えよう。	
環境デザイン	環境デザインを学ぶ上で最低限必要な基礎的造形力、および基礎的デッサン力があるか。形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。		本学科の授業を理解できるだけの日本語会話能力があるか、日本で、また多摩美術大学で学びたい理由がはっきりしているか、本学科で環境デザインを学ぶ意欲、目的意識がはっきりしているか。	
情報デザイン メディア芸術コース	形式は、伝統的な鉛筆デッサンであったが、見たものを描くだけでなく、目の前に存在しないものを分析的に想像するテーマを加えることによって、デッサンの技術力はもちろんのこと、それに加えて問題文の理解力、分析から生まれる想像力、具体的な大きさを把握する力、そして限られた時間の中で、計画を立てて、出題者の意図が理解できたことが伝わるように解答を制作するプランニング能力などを、総合的に判断することができるような出題とした。		<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオに基づくプレゼンテーションで、作品のコンセプトや制作過程を自分の言葉で伝えることができるかどうか ・実技試験の感想を聞いて、出題意図の要点をどれだけ把握できているかどうか ・入学後の関心分野についての質問で、どのような将来ビジョンを持っているのか。 ・日常会話に支障がないかどうか、日本語の習熟度の確認。 	
情報デザイン 情報デザインコース	手とモチーフ(スプーン)の鉛筆デッサンを通じて下記の評価を行なった。 ・対象を見る観察力 ・基礎的な描画力 ・手やモチーフの形・質感などの表現力 ・手とモチーフによる構成力 ・モチーフの特性を考慮した構図の工夫 以上を通じて、観察して描くことに取り組んでもらうことが出題のねらいである。		<ul style="list-style-type: none"> ・自己アピールなどプレゼンテーション力があるか ・日本語でのコミュニケーション能力があるか ・プレゼンテーションにおいて、作品の制作の意図・過程・結果・価値を説明できるか ・入学後の具体的な学習・研究イメージがあるか ・情報デザインの分野の専門性を理解しているか 	
芸 術	日本語の習熟度だけでなく、思考力のみ。論述の着眼点が出題内容に対して的確であるか、論旨は明確で説得力があるか、という点も判断基準となる。常識的にまとめた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待している。		外国人留学生の存在は他の学生にとっても大きな刺激となる。面接試験では、直接本人と会って日本語能力が適切であるか、芸術に関する最低限の基礎知識をもっているか、などを判定する。	
統合デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力=問題の把握、理解が正しいか ・観察力=日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力=イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力=構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・視 点=対象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか 		<ul style="list-style-type: none"> ・入学志望理由が明確であるか ・本学科の内容を理解しているか ・授業に必要な対話力・語学力はあるか ・授業への取り組みの意欲があるか 	
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース	<p>舞踊: 歩き/ジョギング/音楽と一緒に即興的な動きの3つの項目を実施。身体を動かしながら日本語の口頭での指示を聞き取り、指示を基にして何らか実践することができているかを見た。聞こえてきた音楽を、自分なりの身体的な感覚で受け取る試みができるかどうかを見た。</p> <p>演劇: 1. 母国語での自己紹介、後に同じことを日本語でもう一度実施 2. 今日朝起きてから家を出るまで即興的なエチュード 3. 激しく動き続けた後(20秒)、最後に叫ぶ(5秒) 求められたことに対しての各自のエネルギーのかけ方を見た。 自由な課題の中でどの様な発想をもつかを見た。</p>		主に自身の国を離れて日本に来て学ぶ動機と、大学の中でも多摩美を目指す意志を尋ねた。実技試験の感想、日常的にどのような事柄に興味があるかを尋ねた。他、基礎過程の2年間に演劇と舞踊の両方を学ぶことに耐性があるかどうか、必修科目の中に日本語で実施される講義科目があることを承知しているかを確認した。	
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザインコース	鉛筆デッサンは、4種類の質感の異なるモチーフを与えた。それらを想定で組み上げることによって空間構成力やモチーフの異なる質感を描き分ける観察力と表現力を、光と影で陰影を劇的に描写できる感性があるかを探る。舞台美術はプロセシムを、映像美術はフレーム回角を意識して美術設計を行う。目撃からそのような感覚で空間と対象を見る目を持つことが重要である。また、常に光を意識し独創的ドラマティックな発想をすることが必要である。想定デッサンとなっているのは、モチーフを自由に構成し、情景をも創造してほしいということである。		<ul style="list-style-type: none"> ・授業を理解できる日本語会話能力・理解能力を有しているか ・学科の特色を理解しているか 志望動機が明確か ・協調性があるか ・授業への熱意と適応力があるか ・作品の説明が的確であるか 	

全学科共通小論文

- 1) 題「メイド イン ジャパン」という題で、あなたの専攻領域をふまえて800字程度の文章を書きなさい。
- 2) 日本製品への関心がどの程度あるかを問ひ、当大学で何を学びたいと考えているかを判断した。
- 3) 正しい日本語によって書かれているか。また意味内容が明確であり、かつ強い意欲が感じられるかという点についても合わせて考慮した。